

第4章 泉大津市の地理的、社会的特徴

第1節 地形

本市は、東経135度24分、北緯34度30分に位置し、大阪府の中央部からやや西よりで、大阪都心から南西へ約20km、関西国際空港から北東へ約15kmのところであり、東西5.5km、南北約4.5km、面積は、13.29km²（うち4.33km²が公有水面の埋立地）である。

北部は高石市、東南部は和泉市、西南部は大津川を境として忠岡町と隣接し、西北部は約3kmの長さで大阪湾に面している。

1 山地

市内全域がほぼ平坦で、全域が市街化区域であり、山地や丘陵地は皆無である。

2 河川

西南部を流れる大津川その他、中小の河川や水路が数多くある。

3 池・沼

小寺池、中池がある。

4 海岸

約3kmの海岸は、公有水面の埋め立てにより、自然の海岸線を形成していない。

第2節 気候

瀬戸内性気候に属し、年平均の気温は17℃前後と温暖で、冬季に氷点下になることは比較的少ない。

風向きは、冬季に大阪湾よりの西風が圧倒的に多く、夏期は西風以外にも東風もかなり多く、北西風がふくことも度々ある。

降雨量はやや少なく、年間850～1,400mm程度である。

第3節 人口

1 常住人口

泉大津市の人口（平成22年1月1日現在）は77,914人となっている。

人口密度は市全体で見れば、6,000人/k㎡弱であるが、臨海部を除く人口密度をみると8,600人/k㎡を超えている。

2 昼間人口

平成17年10月の第18回国勢調査によると、泉大津市の昼間人口は70,605人で、昼夜間人口比率（常住人口100人当たりの昼間人口の割合）は90.9となっている。

流動人口は、流入人口が30,859人、流出人口が、37,897人で、流出人口の方が多くなっている。

3 外国人登録者数

泉大津市の外国人登録者数（平成22年1月1日現在）は、1,303人となっている。これを国籍（出身地）別にみると、最も多いのは、韓国・朝鮮で950人（72.9%）、次いで中国の156人（12.0%）、フィリピンの51人（3.9%）、ブラジルの48人（3.7%）インドネシアの33人（2.5%）などとなっている。

第4節 道路の位置等

1 主な自動車専用道路

南北方向に、阪神高速道路大阪湾岸線がある。

2 主な一般道路

主要幹線道路は、南北方向に国道26号線、府道大阪臨海線、府道堺阪南線、市道南海中央線が、東西方向に府道松原泉大津線、府道富田林泉大津線、府道松之浜曾根線、府道大津港府中線、市道泉大津中央線がある。

3 自動車保有台数

平成22年3月末現在、市内で19,058台の自動車が保有されており、その内訳は、貨物用自動車1,493台、乗合用自動車19台、乗用自動車17,078台、特殊用途車224台、その他（被けん引車）244台である。（泉北府税事務所調べ）

また、軽自動車では、16,936台が保有されており、その内訳は、貨物自動車2,918台、乗用自動車7,599台、二輪車687台、原動機付自転車5,118台、その他614台である。（市税務課調べ）

第5節 鉄道、港湾の位置等

1 鉄道

鉄道は、西側に南海本線、東側にJR阪和線が南北に縦走している。

なお、南海本線については、現在連続立体交差事業が進められている。

2 港湾

特定重要港湾堺泉北港（泉大津地区）があり、商港機能を有している。

旧港再開発地区においては、住宅や商業施設が整備されつつある。

フェニックス泉大津沖埋立処分場跡地の開発が進められている。

海上交通として、泉大津～九州新門司間を結ぶカーフェリーが毎日1便就航している。

また、外航コンテナ航路として、上海に週1便等、さらに内航航路として、千葉・岡山・四国中央へ毎日上下1便、宮崎・水島等へRORO船が週3便就航している。

第6節 主な施設等

1 高層建築物

泉大津駅東地区再開発により、駅前に住区と商業施設を併用した36階建て2棟が存在する。

松之浜駅東地区市街地再開発により、住区と商業施設を併用した13階建1棟が存在する。

阪神高速道路大阪湾岸線近くに、商業施設とマンション群が、また市内各地に高層マンションが存在する。

2 石油コンビナート等

臨海地区の一部が石油コンビナート等特別防災区域に指定されており、各種製造業等の工業施設が立地している。